

EDGE-NEXT 人材育成のための共創エコシステムの形成

(実施期間：平成 29～令和 3 年度)

実施機関：主幹機関—早稲田大学（総括責任者：須賀 晃一）
協働機関—山形大学、滋賀医科大学、東京理科大学

採択プログラムの概要

EDGEプログラムでの成果を基盤に、コンソーシアム参加大学の強みや国内外の産学官の英知を結集して、「グローバルリーダー」「医工分野」「地域貢献」を体現するアントレプレナーの育成を目指し、挑戦する人材のすそ野拡大に向け「Future-EDGE人材」、実際の起業・新規事業創出に向け「EDGE-NEXT人材」を文理融合で養成する。本事業の特長は、①欧米アジア及び国内へのダイナミックなプログラム展開、②分野特化型と美大との連携によるラピッドプロトタイプング手法を導入したリーンスタートアップ開発、コーチング導入などによる教育プログラム高度化、③学部生などへの受講生裾野拡大と、VC等から大型資金調達を実現するまでの創業支援による出口強化などである。これらの取組を通じて、各機関が世界を惹きつけるアントレプレナー育成拠点（エコシステムハブ）となり、我が国のベンチャー・エコシステム構築に寄与し、「失敗を恐れず、前進する起業文化」の醸成に貢献する。

(1) 評価結果

| 総合評価 | I. 進捗状況 (中間評価) | II. 取組状況 | III. 計画・改善 手法の妥当性 | IV. 今後の見通し |
|----------|-------------------|----------|----------------------|------------|
| S | S | S | S | a |

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

本プログラムの遂行により、アントレプレナー人材が育成され、エコシステム構築が期待される。特に平成 30 年度の米国への武者修行の成果発表会の成功は、本プログラムの卓越性をも示している。多様な計画に対して実施機関はそれぞれ着実に取り組んでおり、成果が表れつつある。主幹機関のノウハウと経験が活かされ、協働機関に影響をもたらしている。当初計画に対して受講者数、起業・新規事業数、外部資金導入率等が、2 年目にもかかわらず目標を大きく超えており、高く評価できる。早稲田大学の動きが突出しており、エコシステム形成に大きく貢献している点もすばらしい。大学間の連携や、学内で横断的に取り組んでいる点は評価でき、アジア地域の大学との連携にも特色がある。主幹機関・協働機関全機関で「起業家育成に関する大学間コンソーシアム連携協力に関する基本協定書」が締結されており、事業の継続性・発展性が期待される。

I. 進捗状況（中間評価）：受講者数、学部生比率、起業・新規事業数など、所期の目標を大きく上回っており想定を超える進捗と考える。各機関の特長を活かしたプログラム開発に向けてコンソーシアム内で検討し、コンソーシアム合同プログラムが実施されている。コンソーシアム実行委員会連絡会、コンソーシアム運営委員会などを定期的に開催し、機関間の情報交換、共同プログラムの推進等が行われているなど、コンソーシアムの連携も遜色ない。山形大学や富山県との協働で、イノベーション創出に向けた取組や地元企業と学生がチームを組む事業創造プログラムが企画され、他コンソーシアムとの連携など積極的に相互参画している。コンソーシアム内大学の連携強化のため合同FD研修を開催しており、シナジー効果を伴ったコンソーシアム構築が行われていることは高く評価できる。

II. 取組状況：コンソーシアム運営委員会、コンソーシアム実行委員会連絡会を定期的に開催し、事業全体の方針策定、進捗管理、機関間の情報交換、共同プログラムの企画推進等が行われ、コンソーシアムの円滑な運営が適切になされていること、コンソーシアムとしての相乗効果が示されていることは高く評価できる。受講者は学部生、大学院生、若手研究者、若手企業人と多様で、PBL手法等を取り入れた実践的なプログラムになっている。意識醸成を目的とした学部生から受講可能なプログラムを正規科目として実施し、メンタリングやハンズオン支援等の相談を受け付け、起業までを支援するプログラムが整備されている点は高く評価できる。メーリングリスト等により受講者や関係者間のコミュニケーションが図られている。主幹機関と協働機関は連携したプログラムを実施しており、エコシステムの構築、プラットフォームの形成を実現している。海外機関等との連携によりアントレプレナー育成システムの高度化を図り人材を育成・輩出している。富山県との取組は地方創生のロールモデルとなりうるものと思われる。グローバルな起業スキルを学ぶ機会として、イスラエルでのアントレプレナー育成海外武者修行プログラム実施は優れたものと認められる。また、各大学の特徴を生かしたベンチャー・エコシステムの構築が自治体、卒業生、企業、地域大学等と連携して進められている。

III. 計画・改善手法の妥当性：資金計画に関しては、外部資金導入目標率を大きく超過達成していることは高く評価できる。PDCAに関して、年4回開催するコンソーシアム実行委員会連絡会と年1回開催するコンソーシアム運営委員会が、各機関での取組の進捗状況をチェック、管理し、他機関からのフィードバックを得ている。また年度末にはコンソーシアム外の有識者による外部評価委員会からの意見・指摘を受けてプログラムの改善に取り組んでいる。外部評価委員会の設置が有効に働き、自立運営に向けた準備が整いつつある。

IV. 今後の見通し：中国重点大学群の学生を対象としたプログラムの実施、富山県との連携、山形大学との東北展開、九州地区との連携など3年度目以降の計画が着々と進みつつある。アントレプレナー育成海外武者修行プログラムの参加学生が各所で成果を上げており、本事業の卓越性を物語っている。初年度に主幹機関・協働機関全機関で大学間協定が締結できたことは、受講者の交流促進のみならず、本コンソーシアムの継続性を裏付けており、イノベーションエコシステムの構築に向けての体制が整備されると思われる。一方、自治体等のネットワークの活用も広がりつつある。また継続的な外部資金導入に向けた取組として「WASAEDA-EDGE 人材育成プログラム後援会」を設立しており、本事業の長期的継続性に寄与すると思われる。研究テーマを活かした起業事例が輩出されつつあり、今後に期待できる。協働機関における継続性を担保するため、民間企業からの現金収入に手だてを図る必要がある。高校や海外大学との連携や、山形大学が東北大学と協力して東北地方の多くの大学にアントレプレナー育成プログラムを展開し、波及効果を上げていることは評価できる。